

編集後記

- ◇ この第9巻第2号は「路上禁煙考」と題する津田洋幸氏の巻頭言をいただき、6報の記事を収載して発行することができました。ご多忙の中、ご執筆下さった津田洋幸氏には感謝申し上げます。津田氏は、肺がんによる死亡の約7割が喫煙によるとされて喫煙率を低下させ受動喫煙を無くすことが世界的に肺がん撲滅のカギであるにもかかわらず、日本の路上禁煙条例にはレストランなどを違法喫煙場所にしてしまうという非合理的な側面があることを指摘しておられます。
- ◇ また、この号に収載された八木雅浩氏の「機微技術開発成果の適切な保護制度の在り方」では、核・生物・化学兵器などの機微技術の不拡散への関心が世界的に高まっている中で、日本の特許制度は申請情報に含まれる秘密情報を保護する仕組みがないため、新規な機微技術の詳細を世界に拡散させ安全保障を損ねる事態を招きかねないことが危惧されています。
- ◇ このように両氏のご指摘は、これまで学会誌に取り上げられなかったリスク管理上の新たな視点を提起しています。しかしこれまでの学会誌における指摘と同様に、化学物質や生物に限らず、国際的な潮流をきちっと受け止め、論理的かつ合理的な制度を構築していく重要性和ともに、様々なリスク問題の管理政策を構築する際に多面的に意見を聞くことの重要性が示唆されています。(Y. H.)